

TSSコマンドの追加

山崎, 信広
九州大学中央計数施設

<https://doi.org/10.15017/6767913>

出版情報：情報処理教育広報. 3 (1), pp.67-69, 1980-05. Educational Center For Information Processing, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



T S S コ マ ン ド の 追 加

山 崎 信 広*

T S S コマンドとして次のコマンドを追加しました。

1 MOVEコマンド(行移動コマンド)

(1) 機 能

カレントファイル中のテキストの1部を行番号の指定により移動する。

(2) 形 式

選択レベル	コ マ ン ド	オ ベ ラ ン ド
*	MOVE └──┘	└─┘ l 1 △ l 2 △ l 3 ……形式1
		└─┘ l 1 △ l 3 ……………形式2

注) △は、区切記号であり数字以外の文字ならば何でも良い。

(3) 説 明

l 1, l 2, l 3 は、各行番号であり、l 1 は、移動するテキスト列の最初のテキストの行番号、l 2 は、最後の行番号、l 3 は、移動先の直前のテキストの行番号である。

形式1 ……l 1 からl 2 までの行番号のテキストをl 3 の直後に移動する、またl 3 が、カレントファイル中に存在しない場合はl 3 より小さな行番号の直後に、最小の行番号より小さい場合は、先頭に移動する。

形式2 ……これは、1 行の移動の場合で処理は、形式1 と同じである。

(4) 制限／注意事項

① 移動したテキストの行番号は、移動先の直前のテキストの行番号につづけて (l 3 が最小の行番号よりも小さいときは、1 から) 増分1で付け換える。

また、付け換えた行番号が後のテキストの行番号と重なった場合は、後のテキストも移動した最後のテキストの行番号に続く行番号に付け換える。(使用例参照)

② 各パラメータは、0 から 99999999 までの整数でなければならない。

③ l 2 は、l 1 と同じか、それよりも大きくななければならない。

④ l 1 からl 2 で示す範囲にl 3 を含むことは、できない。

⑤ 1 行 100 文字を越すテキストに対しては、利用できない。

⑥ 1 度に移動できるテキストは、50 行までである。

⑦ 処理中にブレークキーを2度以上押すとカレントファイルの内容は、保障されない。

⑧ 21 ～ 24 のアクセス名がA F T 中に存在する場合は、このコマンドは、使用できない。

(5) エラーメッセージ

① ***** PARAMETER ERROR *****

パラメータに誤りがある。

② ***** GYOU-BANGOU GA NAI *****

l 1 ～l 2 の範囲内にテキストが存在しない。

③ ***** GYOU SU GA 50 O KOETA *****

1 度に 50 行を越すテキストを移動しようとした。

④ ***** 100 MOJI O KOSU GYOU GA ARU *****

テキストの中に 100 文字を越すものがある。

* 中央計数施設

以上のメッセージが出力された場合カレントファイルの内容は、変更されない。

(6) 使用例 (→ 2 (6) 使用例)

2 DUPコマンド (行複写コマンド)

(1) 機能

カレントファイル中のテキストの1部を行番号の指定により複写する。

(2) 形式

選択レベル	コマンド	オペランド
*	DUP	└┐ l1 Δ l2 Δ l3形式1
		└┐ l1 Δ l2形式2

注) Δ は、区切記号であり数字以外の文字ならば何でも良い。

(3) 説明

MOVEコマンドに同じ、ただし移動を複写とする。以下同。

(4) 制限/注意事項

MOVEコマンドに同じ、ただし④に対しては、該当しない。

(5) エラーメッセージ

MOVEコマンドに同じ。

(6) 使用例

※LIST

010 AAAAAAAAAA

020 BBBBBBBBBB

030 CCCCCCCCCC 最初の内容

040 DDDDDDDDDD

050 EEEEEEEEEEE

(形式1)

※MO 40 50 1 ←

行番号40～50のテキストを行番号1の後(最小の行番号10より小さいので先頭)へ

↑ ↑

移動

区切り記号に └┐ (空白) を使用

※LIST

1 DDDDDDDDDD

2 EEEEEEEEEEE

← 行番号を1から増分1で付け直す

010 AAAAAAAAAA

020 BBBBBBBBBB

030 CCCCCCCCCC

(形式2)

※MO 30,1 ←

行番号30のテキストを行番号1の後へ移動

※LIST

1 DDDDDDDDDD

2 CCCCCCCCCC

← 行番号1に続けて行番号を付け直す

3 EEEEEEEEEEE

← 元は、行番号2であったが1との間に1行移動して来たので1つずれた

010 AAAAAAAAAA

020 BBBBBBBBBB

(形式1)

× DUP 10, 20, 2 ← 行番号10～20のテキストを行番号2の後へ複写

× LIST

1 DDDDDDDDDD

2 CCCCCCCCCC

3 AAAAAAAAAA

4 BBBBBBBBBB

5 EEEEEEEEEEE ← 元は、行番号3であったが行番号2との間に2行複写されたためその分ずれた

010 AAAAAAAAAA

020 BBBBBBBBBB

(形式2)

× DUP 1, 15 ← 行番号1のテキストを行番号15の後へ複写

× LIST

1 DDDDDDDDDD

2 CCCCCCCCCC

3 AAAAAAAAAA

4 BBBBBBBBBB

5 EEEEEEEEEEE

010 AAAAAAAAAA

11 DDDDDDDDDD ← 行番号15が無いのでそれより小さい行番号10の後へ複写した

020 BBBBBBBBBB

3 CNEWSコマンド

(1) 機能

センターニュースを表示する。

(2) 形式

選択レベル	コマンド	オペランド
* または SYSTEM ?	CNEWS	

(3) 使用例

* CNEWS

OPENING HOURS		
MONDAY	13:30	17:00
TUESDAY	9:30	17:00
FRIDAY	9:30	17:00
SATURDAY	9:30	12:00

} センターニュースの表示